

エッセイ Essay



私の中の日本人

大学院生

マーティン・サトシ
フィンクバイナー

私はマーティン・サトシ・フィンクバイナーと申します。あれっ?サトシって日本の名前じゃない?って思われたと思いますが、そうです。私の母は日本人ですので、私は半分日本人で、半分ドイツ人です。ドイツで生まれ育ちました。ちなみにサトシは「聡志」です。

私はドイツの南西部のシュトゥットガルト出身です。この都市について聞いたことがあるかと思いますが、メルセデスベンツとポルシェの本社があります。住民の車がベンツということは珍しいことではありません。

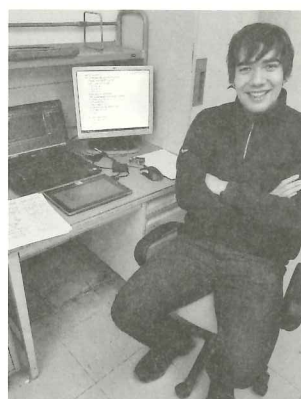
多くの日本人はドイツと言えば、ノイシュバンシュタイン城、オクトーバーフェストのビール、ソーセージ、プレッツェルを思い浮かべると思いますが、実はこれらはドイツ南東部(バイエルン州)のものです。シュトゥットガルトには違った伝統文化があります。(もちろん、ビールはドイツ全土のものですが)例えば、郷土料理はザワークラフト(細切りキャベツの酢漬け)、マウルトタッシェ(スープに入れたもしくはスクランブルエッグを添えたドイツ風餃子)、リンセンとシュペッツェレ(ドイツパスタを添えたレンズ豆)があります。また、ビルヘルムという世界的に有名な動植物園があります。その近くにはビール祭りのカンシュタッター・ベッセンがあり、中には移動遊園地やスイーツショップもありますが、人びとのお目当てはビールテントでしょう。入店すると1リットル単位ですすめられるので、酔っ払いが続出となるのです。あちこちに酔っ払いが…こんなこともあって、私はクリスマスマーケットの方が好きです。お気に入りには10キロ離れたエスリンゲンという小さな町にあります。シュトゥットガルトでは皆がクリスマスマーケットに駆けつけるので観光客向けではありませんが、15世紀から続いている中世のフードコーナーがあったり、様々なものを売っています。

ところで、私はここ豊橋で何をしていますのでしょうか? 答えは豊橋技術科学大学で研究しています。シュトゥットガルト大学には豊橋技術科学大学とのダブルディグリープログラムがあります。つまり、それぞれの大学で1年以上学び、要件を満たせば、両大学院の学位を同時に取得できるのです。私は1年間豊橋技術科学大学で研鑽し、ダブルディグリー

の取得を目指します。専門は人工頭脳工学です。フィードバック制御理論と関係する特殊な分野と言えます。私は今、掘削機の自動運転システムを研究しています。ドイツへ戻ったら博士課程へ進み、ロボット分野の研究・技術開発に取り組んでいきたいと思っています。

さて、話は変わりますが、私の母は父と話す時はドイツ語、私に話す時は日本語と使い分けてきました。(家族で話す時はドイツ語になります。)おかげでバイリンガルです。二つの言語が混同してしまうことは決してありません。母が読んでくれた絵本、「ぐりとぐら」「あらしのよるに」「じっぼ-まいごのかっぱはくいしんぼう」や落語本「じゅげむ」「目黒のさんま」「まんじゅうこわい」は今でも覚えています。

私のアイデンティティーは日本人(少なくとも半分は)だからでしょうか、「日本」という国にとってもなく魅了されています。人びと、食べもの、自然、建築物、あらゆる文化です。私はドイツで生まれ育ちましたので、実は私が望んできたほど日本の文化に親しんでいるわけではありません。ドイツのものでは置き換えることができません。私はドイツで空手を16年間稽古してきましたが、現在、自分の技能を高めるため、特に古武道、弓道、二つの流派の空手を習っています。他にも和太鼓と書道を習いたいと思っています。日本でやりたいことが本当にたくさんあります。自分の中にぽっかり空いた空洞を埋めるかのよう



研究室にて

に、渴望してきたものを満たそうとしているのかもしれない。日本で生活し、日々経験することが私にとって重要なことです。私はどこから来て何者なのか、母から受け継いだ“日本人であること”を発見し、感じながら、この1年を有意義に過ごしたいと思います。